

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立大里柳小学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童 554名 (ゴールボール体験については、5年生90名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間・特別活動・道徳) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	○パラリンピック選手との交流を通じ、競技に取り組む姿勢や生き方について考えることを通して、障害のある方々と共生する豊かな社会をつくらうとする心情を養う。 ○グローバルマナーとおもてなしの心を学ぶことを通して、自己の確立・他者を受容して臆せず積極的に関わろうとする心情を養う。
5 取組内容	(1) 10月3日(木)「一歩を踏み出す勇気～自分が変われば世界が変わる～」 講師：シーズアスリート所属 ゴールボール 浦田理恵 選手  ① シーズアスリート所属 ゴールボール浦田理恵選手より、全校児童に向けての講演会を行っていただいた。ゴールボールとは、視覚に障がいのある方を対象に考案された、パラリンピックの正式種目である。目隠しをして鈴入りのボールを互いに転がし合い、相手のゴールに入れて、得点を競う対戦型競技である。全体講演会では、浦田選手の人生経験をもとに、「感謝」「挑戦」「思いやり」「コミュニケーション」「あきらめない心」など、生きていく上で大切な心と考え方について、ご講話いただいた。



	<p>② 全体講演会後は、本校5年生を対象に、体育館にコートを設置し、ゴールボール体験を行っていただいた。児童3人組のチーム編成をして試合形式で学習を進めていき、ゴールボールという競技自体の楽しさと相手を思いやる心の大切さを、競技全体を通して児童一人一人に味わわせていただいた。</p>  <p>(2) 10月31日(木)「人と人をつなぐあいさつの大切さ～心を姿で表すあいさつ～」 講師：スターフライヤー 湊恵子氏・田口詠里那氏</p> <p>スターフライヤー 湊恵子氏をお招きし、「あいさつ」をテーマに講演会をしていただいた。航空会社での経験をもとに、おもてなしの心を表すときに大切なことや、コミュニケーション能力を高める方法などについて話していただいた。また、異文化を尊重し、様々な立場の方を思いやる心とボランティアマインドをもつことの大切さについても実体験をもとに紹介していただいた。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○苦難を乗り越えてきた方からの実体験を聞くことによって、どんなことにも前向きに目標をもって取り組むことの大切さ、努力している人にしか見えないこと等、物事に取り組む姿勢を学ぶことができた。</p> <p>○ゴールボールを体験し、その競技の難しさを実感することで、障害のある選手に対する尊敬とあこがれの念を抱くことへと繋がった。</p> <p>○パラリンピックの競技にも注目し、応援したいという気持ちをもつことができた。</p> <p>○気持ちの良いコミュニケーション方法やグローバルマナーを学ぶことにより、児童自身が日々の他者（友達や先生、様々な立場の方）との関わり方について見直し、振り返る良い機会となった。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○事前学習として、高学年において、視覚障がいやパラリンピック種目について道徳の時間を活用して行うことで、一層の理解が深まった。</p> <p>○事後の発展学習として、高学年の体育科の学習でゴールボールの学習を行い、パラリンピック種目への興味関心を更に高める工夫をした。</p> <p>○おもてなし講演会では、1～3年生の部と4～6年生の部に分け、発達段階に応じた講話内容を準備していただいた。</p>

8 主な課題等	<p>○教育課程での教科・領域等とのより一層の関連付けを考えていかなければならない。ゴールボールの体験学習は、1 学年のみでしか行うことができなかった。どの学年がどの教科・領域と関連付けて実施するかを考える必要がある。またそれに伴う講師招聘に関わる時期・日程調整が必要となる。</p> <p>○ゴールボール講演会前日までに、体育館でのゴールボールコートづくり等、環境整備が必要。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○「北九州市わたしたちの未来をつくろうプロジェクト」の一環として、スポーツを「する」「見る」「支える」という視点で様々な学校の教育活動と関連付けていくことによって、児童のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高め、持続可能な大里柳小学校の新たなレガシーを創造していくことができるようにする。</p>